

茨城県海産魚類の方言について

浅野長雄

(茨城県立那珂湊水産高等学校)

Vernacular names of fishes in Ibaragi Prefecture

Nagao ASANO

(Nakaminato Fisheries High School)

緒 言

筆者はさきに実業教育会の助成金により、「茨城県の海産魚類相について」¹⁾の研究をしたが、本県産の魚類の方言が相当豊富で、その方言により種類を判定することがしばしば困難なることを経験している。

魚類を生徒に教授するにも、水産の基礎的な研究調査や、諸種の統計調査にも、方言に対する標準和名を明らかにしておくことは最も必要であると考え、昭和24年頃よりこれが研究に着手したが、現在までに魚類126種について、その方言を採集し、その大多数の方言の意味について明らかにし得たので、一応こゝに報告する次第である。

方言の採集は漁師より直接实物によるか、既刊の文献によつた。また方言の意味は文献により各地の方言を比較研究してこれを明らかにしたが、参照文献少なく、稍々牽強附会の感ある場合も少なくない。これが解明には更に方言学、民俗学、言語学的立場よりの探究が必要である。

本研究を発表するに当り方言の調査に多大の援助を与えられた茨城県水産試験場の原田和民、藤本武の両氏、茨城県水産高等学校の橋石民雄氏、国立真珠研究所大村支所の丹下孚氏に深甚の感謝の意を表するものである。

方言と標準和名および学名

魚種名、標準和名および魚種名記載の順序は岡田彌一郎、松原喜代松両博士の日本産魚類検索によつた。方言直後の括弧内には採集地名を記し、採集地不明のものは(一)とした。

方言の右上方の数字(附表参照)は採集者を示し、

- | | |
|------------|----------|
| (1) 茨城県水産会 | (4) 丹下 孚 |
| (2) 松野助吉 | (5) 筆 者 |
| (3) 田中茂穂 | (6) 藤本 武 |

学名中の命名者名の略字は下記の通りである。

M. et H.	MÜLLER et HENLE
C. et V.	CUVIER et VALENCIENES
T. et S.	TEMMINCK et SCHLEGEL
J. et S.	JORDAN et SNYDER
J. et F.	JORDAN et FOWLER
J. et ST.	JORDAN et STARKS
S. et D.	STEINDACHNER et DÖDERLEIN
G. et B.	GILBERT et BURKE

1) 浅野長雄・原田和民：1952. 茨城県の海産魚類相に就て(I). 茨城博物同好会々誌 13号, pp. 20-29.

方言の意味

方言の意味は各種辞典、魚類方言集、その他を参考とし、各地の方言を研究することにより、その意味を明らかにした。方言の解説に当つては標準和名、魚種の分布範囲、最大体長、漁獲数量の多寡、方言を記し、方言の分布についても多少ふれた。

魚類の分布に関しては田中茂穂博士の説にしたがつて次の三つに区分した。

N: 太平洋岸では犬吠崎以北、日本海では島根県西部以北に主に分布する魚類

S: 太平洋岸では犬吠崎以南、日本海では島根県西部以南に主に分布する魚類

NS: N, S の両海区のいずれにも分布する魚類

数量に関しては筆者の見聞と漁獲統計を参考にして、次の五階級に分けた。

rr 稀

r 少ない

± 普通

c 多い

cc 最も多い

Dist. は分布、B.L. は体長で最大体長を示した。

1. クロメクラウナギ S (r)

Dist. 茨城県～高知県

B.L. 60 cm

スボ（豊浦）

長崎県平戸では小鰻をスボと云い、佐賀県有明海ではワラスボをスボと云つている。

ワラスボは泥地に潜棲するハゼ科の魚類で、鰐形をなし、大きなものでも体長 180 mm にすぎない。眼は小さく、皮下に埋没してほとんど盲である。スボはワラスボの略で、ワラスボはワラシベ、ワラシベの意味で、極めて細長い形態のものを表わしている。クロメクラウナギは深海産の魚類で、眼は退化して、ほとんど用をなさない。形はウナギ形である。しかし、ワラシベ（稽）のごとく細くはない。この方言のスボはワラスボより出たものであろう。この種の魚をスボと云うのは本県のみのようだ、他の地方に無く、この魚と形の似た小鰻、ワラスボなどを九州地方でスボと称していることは注目すべきであろう。

2. ホシザメ NS (+)

Dist. 北海道～台湾、朝鮮、中国、アフリカ

B.L. 1.5 m

サガ、サガボウ、ホシサガ（大洗、那珂湊）

福島県小名浜附近では小形のサメをサガと呼び、本県でも小形のサメを単にサガ、サガボウと称しているが、若干の大形のサメにも何々サメと云う代りに何々サガと称している。たとえばシユモクザメをネンブツサガ、アブラツノザメをアブラサガ、ジンベイザメをエビスサガのごとくである。

サガボウのボウは小さな子供の名前に坊の字をつけて清坊、安坊等という呼び名で、小さなものを愛しむ呼名で、カツタイボウのごとくボウを軽蔑の意味で用いているのではないと思われる。この他にサヨリをサイレンボウと称している。

3. ドチザメ S (r)

Dist. 茨城県～朝鮮、印度、濠洲

B.L. 1.5 m

サガドチボウ（大洗）サガボウ（那珂湊）

鮫としては小形の鮫で、体色は暗褐色で、黒色の小円点が散在している。味はホシザメよりもいちじるしく劣り、漁獲数も少ない。

千葉県が北限とされているが、筆者はこれを那珂川口で釣獲した。一般にはホシザメと区別せず、サガ、サガボウと呼んでいるが大洗ではホシザメと区別してドチボウと云う。

ドチザメは標準和名となつてゐるが、これは神奈川県三崎の方言である。ドチとは奴痴の意で、下等なもの、おろかものゝ意で、ドチサガは利用価値の少ない、くだらぬ鮫の意であろう。

4. ヨシキリザメ S (cc)

Dist. 北海道～朝鮮、全世界の温熱帶

B.L. 6 m

グタベ（那珂湊）

千葉県小湊、夷隅地方、神奈川県三崎、小田原、静岡県下田でグタ（愚駄）と云い、神奈川県国府津ではバカ（馬鹿）、高知県須崎ではバカブカと称される。北海道、東北地方から本邦中部にいたる太平洋岸に多い鮫で、鮫類では最も多く漁獲される種類で、肉は臭気が強く食用にならないので昔は棄てたものである。現在では肉は蒲鉾や竹輪の原料となり、鮓は鮫類中で最も良質の方であるから、この名は当らないが、処理場にゴロゴロ横たえられて、ぐつたりしている状態を見るとグタベなる名称、まことに適切である。

グタベのベは呼名に添えて罵る語で、馬鹿奴のメと同意であろう。

5. シュモクザメ S (rr)

Dist. 北海道～朝鮮、ほとんど全世界の温熱帶

B.L. 4 m

ネンブツサガ（大洗）、ネンブツサメ（大津）

頭部の両側が延長し撞木状を呈するのでこの名がある。鹿児島県、肥前ではネンブツブカと云う。

6. ジンペイザメ S (rr)

Dist. 全世界の温熱帶

B.L. 16 m

ジンペイサン、エビスサガ（大洗）

この鮫は南日本のもので本県にはごく稀れに来游する魚類中最も大きなもので、千葉県銚子でジンペエ内房州や神奈川県三崎でエビスザメと云う。

甚兵衛鮫の名称の由来は、昔、甚兵衛なる漁師がこの鮫を初めて見て、その大きいのに驚いた。それ以後、この鮫をジンペイザメと云われたと。また一方、甚兵衛なる漁師が、この鮫を見つけ、鰯の大漁をしたので、それより甚兵衛鮫と云うようになったとも云われる。

エビスサガはこの鮫を見つけると鮫付鰯の大漁があるので、かく名付けたのである。

この鮫のまわりは必ずと云つても差支えないほど常に鰯が群れている。この鰯の群を鮫付と云つてゐる。

7. ネヅミザメ N (cc)

Dist. アラスカ、カリホルニア、北海道、東北地方、茨城県

B.L. 3 m

モウカ（那珂湊）

モウカと称する地方は神奈川県、宮城県（女川、気仙沼）岩手県、青森県である。

モウカザメと云う所は静岡県（吉田、下田）宮城県（渡波）、秋田県（金浦）、北海道（釧路、紋別、網走、三石）等である。

北日本の鮫で、東北地方から北海道方面の太平洋に多く棲息し、強暴性で鮭鱈類を貪食すると云われる。肉は純白色でこぶる美味である。鰓鰭、蒲鉾に利用される外、皮革原料にもなる。

モウカはマフカより転音したものと思われる。関東、東北地方で、真鰓と云つたことは、まさに興味深い注目すべきことである。

魚名にマの字を冠したものはマイワシのごとく、イワシ類中多く獲れるものを意味し、また、マゴチのごとくコチ類中最も美味なることを示している。

元来、鮫を鰓と呼ぶのは関西、九州方面で、東京附近ではサメの大きなものをフカと呼ぶと云われるが、方言として関東、東北地方ではサメをフカとは呼ばない。それにもかゝらず、ネヅミザメの方言に關東、東北にわたつてサメをフカと称していることは研究する必要がある。鮫は島根県を中心とした山陰地方ではワニと云う。

鮫を呼ぶ語にはサメ、フカ、ワニ、サガと四通りあるようであり、ある種のサメを単にサメ、フカ、ワニ、サガと称し、また、サメイオガ広島県（加茂）に、サメブカが紀州（室戸、湯浅）にワニブカが紀州（御畠瀬）に、ワニザメが山形県に方言として残つていることも興味深い。

8. アヲザメ S (r)

Dist. 北海道～朝鮮、殆ど全世界の暖海

B.L. 7 m

モロ（大洗、那珂湊）

ネヅミザメと同科の鮫で、よく似ているが、ネヅミザメが北日本の鮫であるに対して、アヲザメは南日本の鮫で漁獲量は極めて僅少である。上下両顎の歯は鋭く先端が尖り、長い犬歯状を呈し、性頗る獰猛で人間や他の動物に勇敢に襲いかかると云われ、この歯には猛烈な毒素があり、たとえその歯に刺されて死んだ魚に着いていた毒でもはなはだしい疼痛を惹起するほど劇烈性を有している。

称呼地不明であるが、モロサガ、モロコザメの方言もあり、西九州ではモロザメと云う。また、岩手県（釜石）ではムロ、岩手県（釜石）、宮城県（気仙沼）ではムロザメと称している。

モロはムロザメ～ムローモロと転じたものであろう。モロはムロ（樺）の木の葉のような針状の鋭い歯を有する鮫の意であろう。樺は松杉科に属し、山野に自生する常緑喬木で、針形の先の鋭い葉を有し、別名、ネヅミサシ、ネヅサシの名がある。

クサムロリ（大津）

この意不明であるが、植物のムロの木の葉のような鋭い歯を有している鮫の意であろう。

9. アブラツノザメ N (+)

Dist. 北海道、東北地方、朝鮮東南部

B.L. 1 m

アブラサガ（大洗）

アブラザメと称する地方は、北海道（釧路、網走、三石）、青森県（鰺沢）、宮城県（渡波、気仙沼）、福井県（三国）等である。

この鮫は北日本に広く分布し、殊に東北地方で漁獲が多く、竹輪、蒲鉾などの練製品原料として重要な地位を占めている。

この鮫は肝臓に多量の油を含むので、この名がある。

ハツカザメ（大谷村）

この鮫は他の鮫に較べ体形が比較的小なので、この名があるのではあるまいか。

10. ノコギリザメ S (rr)

Dist. 北海道～南日本、朝鮮、東支那海

B.L. 2 m

ダイギリ（水戸、大津）

ダイギリは大鋸の意で、吻部がいちじるしく延び、その左右の各側に強い突起が一列に出ていて、その形状が鋸のようであるから、この名が付いたのである。

ジョウヘイ（大洗）

意味不明

11. サカタザメ S (+)

Dist. 茨城県～朝鮮、フィリピン、中国、アラビア

B.L. 1 m

ハンブシ（那珂湊）

意味不明

12. ガンギエイ NS (c)

Dist. 本州各地～朝鮮、広東

B.L. 1 m

サボミヤ（大洗、那珂湊）

このエイの腹面の口部の附近のようすが人間の顔をそばめたような形をしているところから、
スボミヤ→サボミヤと称したものであろう。ヤははずかしがりやのヤと同じ意味である。

レンテ、レンティ（那珂湊、久慈）

意味不明

宮城県（氣仙沼）でレンテンと云う。

ポンクトク（大津）

宮城県（玉造郡）ではポンクトクは馬鹿、馬鹿者の意あり、したがつて、このエイの形態より受ける感じが馬鹿者のような感じがするのでかく云うのであろう。

13. アカエイ S (c)

Dist. 茨城県～朝鮮

B.L. 1 m

サボミヤ（——）

カスペ（那珂湊）

岩手県（釜石以北）、福井県（敦賀）にてもかく云う。

カスペも馬鹿者の意、ベはメに同じ。

14. トビエイ S (+)

Dist. 北海道～南日本、朝鮮、東支那海

B.L. 1.5 m

トリエイ（大洗）

新潟県（能生）伊勢湾にてかく云い、宮城県（氣仙沼）ではトリエウと云う。また高知県（高知、順崎）ではトビエと称す。

形態、鳥の飛んでいる形に似ているため、この名がある。

15. イトマキエイ S (rr)

Dist. 北日本～南日本, 朝鮮, 中国, ハワイ

B.L. 2.5 m

ギンメ (大洗)

和歌山県 (三輪崎), 三重県 (木本, 二木島) でギメ, ギメザメという。房州, 伊豆にてはギンメと称す。体重 150 貁に達しそこぶる大きい。

体色は灰色から青味を帯びて, 眼が銀色に光るので, この名があるのであろう。

16. ココノホシギンザメ (ウサギザメ) N (r)

Dist. 千葉県, 茨城県, 岩手県宮古, 青森県

B.L. 1 m

ウサギ (久慈)

宮城県 (氣仙沼) でもかく云う。宮城県 (渡波, 氣仙沼) でウサギザメと称す。頭胸部の形態やウサギの頭に似ているからである。

ケツメトダイジン (大津)

福島県 (小名浜) でケツメトミツと云う。これは肛門が三つある意で, このギンザメの肛門部の形状があたかも肛門が三個あるようのような状態なのでかく名付けられたものであり, ケツメトダイジンも肛門をたくさん持つている魚と云う意味である。

17. ギス NS (r)

Dist. 函館～高知, 新潟, 鳥取

B.L. 50 cm

ダボギス (茨城一円)

神奈川県でダボあるいはダボギスと云う。ダボは愚人, 馬鹿の意で, 東京では筆者が子供の頃チブをダホハゼと云つた。このハゼはミズその他の餌をつければ少しばかり針が出ていようが, 容易に釣れるので, 馬鹿なハゼという意味である。ダボギスもまた同じ意味である。

18. ニシン N (c)

Dist. 北日本, 朝鮮

B.L. 30 cm

カド, カドイワシ (那珂湊)

東北地方, 北海道でかく云う。

カドの意味不明, カドは鮮魚名で, ニシンは内臓を取り去り二本に割いて乾製品にしたものと呼ぶと云う。

この魚は茨城県が南限である。北海道のものに較べ脂肪少なく不味である。

19. サツバ S (+)

Dist. 北海道～南日本, 朝鮮, 東支那海

B.L. 20 cm

サツバイ (那珂湊)

東京ではサツバといい, 千葉県 (安房, 小湊, 銚子, 芦浦地方, 木更津) ではサツベラと云う。大言海には味淡白なのでサツパリした味なのでこの名があるとしている。はなはだ牽強附会なようであるが, この魚は惣菜用とし, また鮓の材料として用いられ, この名が江戸時代に発生したものらしいので, あるいは当つているやも知れぬ。

20. カタクチイワシ NS (cc)

Dist. 横太～南日本、朝鮮、東支那海

B.L. 15 cm

セグロ（茨城一円）

青森県（八戸、大畠）、岩手県、宮城県（女川）、福島県（小名浜）、千葉県（小湊、安房、夷隅地方）、新潟県、愛知県（豊浜）、兵庫県（由良、佐野、福良、湊）、山口県（阿川）、愛媛県、高知県

セグロは鰹釣の生餌として最も良好であるので、方言領域も広範囲である。この魚は背部青黒色、腹部白色であるので、この名がある。これを乾したものをゴマメと云う。

チリメン（大洗）

セグロの極めて小さなものをチリメンと云う。愛知県、広島県でもかく云う。これが乾製品をチリメンジャコと云うのは高知県である。

高知県（高知）ではタイの幼魚をタイジャコと称する。チリメンはチリメンヂヤコよりきたもので、チリメンとはセグロの幼魚の煮干が真直ぐでなく、いろいろな形にちぢまつているので、チリメンジャコと称したのである。

ボウズ（大洗）

頭部がこの種の特徴を表わすようになつたものをかく云う。その形が坊主に似ているからである。

ゴボウイワシ（大洗）

極く大きなものを云う。これは他のイワシに較らべ体細長く、いくぶん牛蒡に似ているためである。

21. サケ N (cc)

Dist. 茨城県以北、北日本

B.L. 70 cm

サケノヨ（那珂湊）

富山県（魚津）でサケノ、富山県（氷見）でサケノイオ、宮城県（氣仙沼）、富山県でサケノオ、秋田県（金浦）でサケノヨと云う。

大言海には裂え魚の意味で、倭訓葉には、その肉が片片に裂けやすいから、この名があると云う。

22. シラウオ NS (cc)

Dist. 横太、北海道、朝鮮、新潟、霞ヶ浦、桑名、紀州、松江

B.L. 9 cm

トノサマウオ（霞ヶ浦麻生）

江戸時代シラウオを藩主、あるいは將軍に献上したので、この名がある。

チリメン（大洗）

極めて小さなものをチリメンと云う。

ババ（大洗）

大きなものをババと云う。

23. アオメエソ S (r)

Dist. 茨城県～高知県、富山

B.L. 15 cm

ヌヒカリ（波崎）

愛知県、高知県にてもかく云う。眼が光沢ある緑色なので、この名がある。

24. ムラサキシヤチフリ S (rr)

Dist. 茨城県

B.L. 50 cm

トオジン（水戸、那珂湊）

この魚は頭大きく、体は著しく延長し、側扁し、後方に至るに従い細長い。体は極めて柔軟で鱗がなく、口部は腹位にある。かく奇妙な形をしているので、日本のものと思えないという意味でかく云う。

25. ウナギ NS (cc)

Dist. 北海道～台湾、朝鮮、中国

B.L. 70 cm

ガヨコ、カヤンコ（那珂湊）

宮崎県でカイコ、千葉県カヨ、カヨオ、カヨコ、カンヨツコと云う。おそらく海の魚の子の意で、鰻は海で産卵し、その稚魚が海より河へ溯るので、かく名付けられたのであろう。

26. マアナゴ NS (cc)

Dist. 北海道～九州、朝鮮

B.L. 90 cm

ハモ（県下一円）

北海道、東北地方、山陰道（宮津）、青森県（鯫）、富山県、新潟県、福井県（小浜）、兵庫県（香住、但馬）、岩手県、宮城県（氣仙沼）にてもかく云う。

その形、味もハモに似たしめ、名付けられたものであろう。北日本にはハモはほとんど分布していない。

27. ギンアナゴ S (+)

Dist. 茨城県、新潟～紅海、アフリカ、濠洲、ポリネシア、ハワイ

B.L. 1 m

ギンハモ（大洗）

体色淡褐色で銀色光沢があるので、かく云われる。

28. サヨリ NS (cc)

Dist. 北海道～南日本、朝鮮、台湾

B.L. 40 cm

サイレンボウ（土浦）

福井県でサイヨリ、愛知県、愛媛県でサイラ、和歌山県、徳島県でサイレ、島根県でサイル、愛知県でサイロと云い、いずれも体の細い魚の意である。

サイレンボウもまた同じである。ボウはサガボウに同じ。

ヨド（土浦）、鳥取県（湖山池）は意味不明。

29. トビウオ S (c)

Dist. 茨城県～台湾、朝鮮

B.L. 35 cm

ツバメウオ（大洗）

愛媛県にても云う。

トビヨ、トビオ（大洗）

トビ魚の意、いずれもこの魚の海面上を飛行する習性より名付けられたるものである。
秋田県でトビヨ、トビオ、岩手県でトビヨと云う。

30. ヤマトカマス S (c)

Dist. 茨城県～台湾、アフリカ、セレベス、ハワイ

B.L. 60 cm

カマス（大洗、那珂湊）

高知県、福岡県（豊前海）、宮崎県（油津）でも、かく云う。意味不明。

31. ボラ S (cc)

Dist.

B.L. 80 cm

スバ（土浦）

福島県でスバコ（3寸以下）、石川県でスバシリ（5寸位）、兵庫県（高砂）でスバシリ（3寸位）、福岡県でスバシリ（3年魚）と云う。

河海の浅瀬などで群遊せるボラの稚魚が物に驚いて逃去る状況より、かく名付けられたものである。

イナ（那珂湊）

宮城県（一年魚）、群馬県、千葉県、愛知県、三重県（小なるもの）、大阪府（小なるもの）、兵庫県、鳥取県（一年魚）、島根県（小なるもの）、岡山県（小なるもの）、広島県（1尺以下）、山口県（幼魚）、徳島県（小なるもの）、愛媛県（小なるもの）、高知県（5寸内外）、福岡県、熊本県、イナは若魚の意味である。ボラの小なるものを云う。

ニサイゴ（那珂湊）

三重県、東海地方（7寸位）、宮城県（気仙沼）にてニサイと云う。二年魚の意味である。一尺以上の大なるものをボラと云う。

32. マトオダイ S (r)

Dist. 茨城県～朝鮮釜山、中国、アフリカ、濠洲

B.L. 50 cm

マツダイ（大洗）

福井県（小浜、三国）、岡山県（高梁）、宮崎県（油津）で、マトダイ（的鯛）と云い、兵庫県、岡山県（金浦）、広島県（鞆）、高知県でマトオ、三重県（尾鷲）でマトウオ、徳島県、高知県でマトと云う。マツダイもマトダイより転音せるもので、体側中央に的のごとき、褐色円形の斑紋があるので、この名がある。

カガミダイ（那珂湊）

宮城県（気仙沼）、福島県（小名浜）、兵庫県（佐野、高砂）でも、かく云う。

体色、帶青銀白色でマトオダイと体形、同様で斑紋の多少異なるものをカガミダイと云うが、これに似たためであろう。

33. マツカサウヲ S (rr)

Dist. 北海道南部、朝鮮～南日本、アフリカ、濠洲

B.L. 16 cm

イシダイ（水戸）

その形は鯛に似て、小さく、大きな、すこぶる粗硬な骨質の鱗をかぶり、松球のようで、非常に堅いので、この名がある。

34. カツヲ S (c)

Dist. 北海道、朝鮮以西、ほとんど全世界の温熱帶

B.L. 90 cm

カツ、カツウ(那珂湊)

岩手県、宮城県(氣仙沼)、福島県(小名浜)、千葉県(夷隅地方)、愛知県でカツと云い、千葉県(小湊、銚子、安房、木更津)でカツウと云う。

いずれもカツヲより転音せるもの。意味不明。

35. ヒラソオダ NS (+)

Dist. 北海道以南、広く全世界の温熱帶

B.L. 40 cm

ソオダ(那珂湊)

千葉県(夷隅地方、銚子、木更津、小湊、安房)、愛知県、神奈川県にても、かく云う。
その意味不明。

36. マルソオダ NS (+)

Dist. 北海道～南日本、朝鮮、台灣

B.L. 35 cm

チボ(大洗)

マルソオダの小なるもの、チボとは子供、赤児の意あり、すなわちマルソオダの未成魚の意である。

ソオダ(那珂湊)

ヒラソオダと区別していない。

37. マグロ NS (+)

Dist. 朝鮮、千島以南、ほとんど全世界

B.L. 3 m

デンブク(大洗、那珂湊)

三重県で2寸位のボラをデンブクと云い、青森県で30cm以下のブリをデンブ、岩手県でブリの子をデンブという。

本県、稲敷郡では花の骨をデンボと云う。那珂湊では1～2貫のマグロをデンブクと云つてゐる。未成魚と云う意味であろう。デンボ+カ→デンブカ→デンブクとなつたのではあるまいか、カは魚を意味する。

メジ(那珂湊)

青森県(八戸、深浦)、岩手県、宮城県、福島県、新潟県、富山県(新湊)、石川県(金石、七尾)、静岡県にてもメジと云い、いずれも500匁から3貫前後のもの、すなわち鮪の小なるものを呼ぶ。また、静岡県では500匁～1貫の鮪をメジカと云う。江戸時代には2尺以下の鮪をメジカと称したと云われる。メジカとは小なる魚の意味であろう。那珂湊ではデンブクよりも大きい鮪を云う。

チュウブ(那珂湊)

東京でチュウまたはチュウボと称する鮪は体長80cm位、体重4貫位のものである。鮪の中位の大きさのものという意味である。那珂湊ではメジより大きな鮪を云う。

マグロは体長1m以上、体重4貫以上のものを云う。

38. ピンナガ S (c)

Dist. 東北地方以南の暖海、大西洋

B.L. 1 m

ビンチョオ (那珂湊大洗)

岩手県、宮城県（氣仙沼）、福島県（小名浜）、千葉県（夷隅地方、銚子、木更津、小湊、安房）、神奈川県（真鶴）、徳島県（牟岐）、宮崎県（油津、宮崎、折生迫、門川）、鹿児島県（串木野）、でもビンチョウと云われる。

長崎県、宮崎県（門川）、鹿児島県（阿久根）ではビンナガと云う。福岡県ではヒレナガと云う。

この鮎は他の鮎に較べ胸鰭が長いので、ヒレナガ、又転音してビンナガとも云われ、また、ビンチョウとも云われる。

39. メバチ S (+)

Dist. 本州西南部～印度、濠洲、ハワイ

B.L. 2 m

メボ (那珂湊)

メバチのチボの意、すなわちメバチの少なるもの、体重 1～2 貁のものを云う。

チュウボ (那珂湊)

体重 3～4 貽のメバチを云う。

バチ (那珂湊)

体重 5 貽以上のメバチを云う。

岩手県、宮城県、福島県（小名浜）、千葉県、神奈川県（真鶴、横浜）、福岡県（下田）、愛知県（名古屋）、徳島県（牟岐）、高知県。

体の割合に眼と頭とか大きいのでメバチと云い、略してバチと云う。

40. ハガツヲ S (r)

Dist. 本州中部、釜山～印度、アフリカ、濠洲、ハワイ、南北アメリカ太平洋岸

B.L. 1 m

ハガツ (大洗)

ハガツヲの略、この魚は形、カツヲに似て口蓋骨にやゝ強い 1 列の歯があるので、かく云う。

三重県、高知県、岩手県でもハガツヲと云う。

シマガツヲ (大洗)

藍青色の背部に約 6 条の顯著な黒色縦帯があるので、かく名付けられたものである。

シマガツはシマガツヲの略。

岩手県（山田）、鳥取県（浦富、泊）でもシマガツヲと云う。

41. アブラソコムツ S (+)

Dist. 福島～土佐、濠洲、カリフォルニア、大西洋

B.L. 1 m

アブラ (那珂湊)

鮎延繩にかかる。一尾 4～8 貽あり、脂が多いので、アブラと呼ばれる。

42. タチウヲ S (+)

Dist. 北海道、南日本、朝鮮、紅海、濠洲、大西洋

B.L. 1.3 m

タチノイ (大洗)

タチノイヲの略、その形、光沢が太刀のごとくであるから、かく名付けたのである。

青森県、新潟県、石川県、静岡県、愛知県、兵庫県、鳥根県、岡山県、広島県、山口県、香川県、佐賀県、熊本県、宮崎県でタチ、秋田県（金浦）でダチ、青森県、兵庫県でタチヲ、山口県でタチノウヲ、千葉県（小湊、安房）でタチノヨと云う。

43. カジキ S (+)

Dist. 北海道以南、太平洋の暖海

B.L. 3 m

ホンカジキ（大洗）

ホンはほんとうのホンで、カジキ類中最も味の良いことを示す。

カジキは梶木通しの略で、能く船の舵木をも通すというので、かく名付けられたのである。

オカジキ（那珂湊）

メカジキに対して云われたもので、メカジキよりも味も価値も、すぐれたものであることを示す。

福島県（小名浜）でもオカジキと云う。

44. メカジキ NS (c)

Dist. 全世界の温帶から亜熱帶

B.L. 3.6 m

メカ（大洗）

メカジキの略、味はやゝマカジキ類より劣る。

青森県（八戸）、岩手県、宮城県、千葉県、愛知県、宮崎県（油津、門川）、鹿児島県（串木野）にてメカと云う。

ラクダ（大洗）

ネヅミザメを東京ではラクダと云つている。その肉質、味がネヅミザメに似ているので名付けられたのであろう。

45. シイラ S (r)

Dist. 本州中部以南、ほとんど全世界の温熱帶

B.L. 1.8 m

マンビキ（大洗、那珂湊）

水面近くを多数群游するので、万疋と云う。

岩手県、宮城県、福島県、千葉県、愛知県、和歌山県、愛媛県、福岡県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県にてマンビキ。宮城県、兵庫県、高知県ではクマビキ（九万疋）。神奈川県、兵庫県、和歌山県ではトオヒヤク（十百）。千葉県、静岡県、和歌山県、愛媛県、高知県でトオヤク（十百）と云う。

46. イボダイ S (r)

Dist. 松島～台湾、新潟、朝鮮、東支那海

B.L. 25 cm

ボクヅキ（大洗）

意味不明。木付きの意か。

47. カイワリ S (+)

Dist. 東北地方～沖縄、釜山、東印度、アフリカ

B.L. 40 cm

マルアジ（大洗）

マアジに較らべ、体高高く、側面より見ると、丸く見えるので、かく名付けられたものである。

48. ブリ S (cc)

Dist. 北海道、南日本、朝鮮、東支那海

B.L. 1 m

ワカナ	体重	50~60 尻
イナダ	〃	300~400 尻
サンパク	〃	500~700 尻
ブリ	〃	1000~1300 尻
丹後ブリ	〃	2000~3000 尻

ワカナ（大洗、那珂湊、久慈）

若魚の意である。

宮城県、兵庫県、和歌山県、島根県、山口県、高知県でブリの幼魚を、かく云う。

イナダ（大洗、那珂湊、久慈）

イナは若魚の意、ダは不明、ワカナより大きなブリの幼魚をイナダと云う。

静岡県、岩手県、宮城県、秋田県、神奈川県、新潟県、福井県、三重県、京都府、和歌山県でイナダと云う。

サンパク（大洗、那珂湊、磯崎、久慈）

サンパクは佐渡、山梨、京都、鳥取などでは小形の船を意味する。クはカより転じたもので魚の意あり、サンパクは小形の魚の意らしい。

丹後ブリ（那珂湊、久慈）

意味不明。

49. イシダイ NS (+)

Dist. 北海道、釜山、琉球、南中国、ハワイ

B.L. 60 cm

シマダイ（大洗、那珂湊、大津）

幼魚は体側に7条の黒褐色の横帯があり、成長したものでも不明瞭ながら、この横帯が見られるので、かく名付けられたものである。

青森県、岩手県、福島県、愛知県、新潟県、石川県、富山県、福井県、広島県、福岡県、北海道、関西でシマダイと云う。

50. イシガキダイ S (r)

Dist. 本州中部、朝鮮～南中国

B.L. 40 cm

イシダイ（大洗）

体にやゝ大きい石塊状の褐色不正形の斑紋が密布しているので、イシダイと云う。

コモンダイ（大津）

体側の斑紋より、かく云う。

和歌山県（白崎）、兵庫県（明石）でコモンバスと云う。

51. チビキ S (rr)

Dist. 本州中部～ハワイ

B.L. 40 cm

アカムツ（—）

まだ本県のどこでこの名が呼ばれているのかわからぬので研究を要する。

このアカムツはチビキではなく、普通アカムツのように思われる。

52. チカメキントキ S (+)

Dist. 本州中部, 釜山～アフリカ, 濠洲, ハワイ, 大西洋

B.L. 40 cm

カゲキヨ(大洗)

標準和名のキントキも和歌山県の方言からとつたもので、各鰓の棘は強く、眼は大きく、体形丸く、いかにも強そうな感じのする魚で、キントキの名がある。カゲキヨ(景清)は平家物語や源平盛衰記などに出てくる平家の荒武者、体軀長大、剛勇無双の悪七兵衛景清で、源平時代の花々しいよろい武者を、この魚の形態から感ぜられるので、この名がある。神奈川県、和歌山県でも、かく云う。

メヒカリ(大洗)

大きい眼の虹彩が黄色に光るので、この名がある。和歌山県にても、かく云う。

53. ススキ S (c)

Dist. 北海道, 朝鮮～香港

B.L. 1.5 m

セイゴ(那珂湊)

ススキの100匁以下のものを云う。セーグは南島国頭で小刀、セーゴは宮崎県椎葉で小刀を意味す。この魚の背鰓棘は鋭いので、この名があるのであろう。

岩手県、宮城県、千葉県、神奈川県、静岡県、愛知県、三重県、和歌山県、徳島県、高知県、宮崎県、福岡県、長崎県、山口県、広島県、岡山県、島根県、鳥取県、福井県、石川県、秋田県でも、かく云う。

セツパ(那珂湊)

ススキの100～200匁位のものを云う。

意味不明。

ススキは200匁以上のものを云う。

54. イシナギ NS (r)

Dist. 北海道～島根県、土佐、釜山

B.L. 2 m

スミヤキ(那珂湊、大洗)

イシナギの幼魚を云う。幼魚は成魚に較らべ鰓および体全体が黒味がちで、スミヤキのようなので、この名がある。

福島県でスミヤキ、秋田県でスミヤキダイと云う。

スネヤ(大洗)

南島喜界島で海底の瀬をスネイと云う。イシナギは普通200～300尋の海底の岩礁部に棲息しているので、この名があるのであろう。

スネアイ(—)

イシナギの幼魚を云う。

55. アカムツ S (r)

Dist. 北海道～朝鮮、長崎

B.L. 50 cm

ノドグロ（久慈）

口内の皮膜が黒いので、この名があり、太平洋よりも日本海の沖で多く漁獲される。

新潟県、福井県、兵庫県、鳥取県、島根県、福岡県でもかく云う。

56. ニベ S (c)

Dist. 松島湾、富山湾～南日本

B.L. 60 cm

イシモチ（県下一円）

大きい耳石を持つため、この名がある。福島県にてイシモチ、和歌山県で、ニベの幼魚をイシモチと云う。

57. イシモチ S (+)

Dist. 北日本、南日本、朝鮮、印度

B.L. 40 cm

ハダカイシモチ（大洗）

ニベよりも体、銀白色で、斑紋がないので、この名がある。

58. メジナ S (+)

Dist. 北海道～南日本、釜山、フィリピン、広東

B.L. 50 cm

モクヅキ（大洗）

メジナの幼魚は流藻について游泳し、また成魚も海藻類の繁茂するところに棲息するので、この名がある。

59. チダイ NS (cc)

Dist. 南日本、朝鮮、フィリピン、南中国

B.L. 40 cm

ハナダイ（大洗、平磯）、デコ（大洗）

額部が多少他のタイ類より突出し、殊に老成魚ではいちじるしいので、これらの名がある。

千葉県、愛知県、山口県にてハナダイと云う。

60. マダイ NS (cc)

Dist. 北海道～朝鮮、台湾

B.L. 1.2 m

アカダイ（中野村）

体色が美しい淡赤色なので、この名がある。

神奈川県、愛知県、石川県、鳥取県でも、かく云う。

61. ヘダイ NS (+)

Dist. 本州中部～釜山、印度、紅海

B.L. 40 cm

シラツタイ（大洗）

本種は体色灰青色で、クロダイよりも白色光沢があるので、この名がある。

静岡県、和歌山県でもシラツタイと云う。

62. クロダイ S (c)

Dist. 本州中部～朝鮮、台湾

B.L. 45 cm

カイヅ（大洗，那珂湊）

クロダイの100匁以下のものをカイヅと云う。小さな海魚という意味であろうが、たしかなところは不明である。

100匁以上のものをクロダイと云う。

神奈川県，静岡県，和歌山県でもクロダイの幼魚をカイヅと云う。

63. ウミタナゴ NS (c)

Dist. 北海道～九州，朝鮮

B.L. 25 cm

タナゴ（大洗，那珂湊）

この魚は卵胎生で、普通一腹に10～20尾の幼魚を持つている。

タナは北海道松前，青森，秋田県鹿角郡で子供を背負う帶の意味をもち、岩手県でもタンナを同じ意味に用いている。古代日本人は手をタナと呼び東北地方のタガク（持つ）はタナクより転音せるものであろう。

タナゴは子を持つ魚と云う意味であろう。この意味から云うとウミタナゴは眞のタナゴなので、ウミタナゴと云う必要はなく、淡水のタナゴはかえつてカワタナゴとでも云うべきであろう。淡水のタナゴは海棲のタナゴに形がよく似ているのでタナゴと名付けられたのであろう。

青森県，岩手県，宮城県，福島県，神奈川県，愛知県，三重県，和歌山県，兵庫県，島根県，岡山県，山口県，広島県，香川県，大分県，熊本県，長崎県でタナゴと云う。

64. ササノハペラ S (+)

Dist. 本州中部～釜山，琉球

B.L. 23 cm

ウゴイ（大洗），オゴイ（那珂湊，久慈）

ウゴイはウミゴイの略で、ササノハペラが多少鯉に似ているから、この名がある。オゴイはウゴイより転音せるもの。

65. キウセン S (r)

Dist. 函館～フィリピン

B.L. 25 cm

アヅキ，ムギメシ（大津）

その味、小豆、麦飯に似ているので、この名がある。

愛媛県でムギマ、山口県でムギヤキと云う。

66. カゴカキダイ S (c)

Dist. 本州中部，釜山，中国，フィリピン，濠洲，ハワイ

B.L. 20 cm

ギンパ（大洗）

カワハギに似ているので、かく云う。

67. アイゴ S (+)

Dist. 本州中部～印度，アラビヤ，アフリカ，濠洲，ポリネシア

B.L. 30 cm

ネションベン（大洗）

この魚の体臭が寝小便の臭に似ているから、この名がある。

福岡県でイバリ，バリ，和歌山県でアイノバリ，熊本県ではショオベンウヲと云う。

68. カワハギ S (c)

Dist. 本州中部～朝鮮, 東印度, アフリカ, 南太平洋, 大西洋

B.L. 30 cm

ギンパ (大洗)

静岡県でもギンパと云う。宮城県, 静岡県, 愛知県, 三重県ではギハギ。伊豆御蔵島ではギンパイ。いずれも着物を剥ぎるとの意味である。

69. アミメハギ S (+)

Dist. 本州中部～九州, 築山

B.L. 7 cm

ギンパ (大洗)

70. ウマヅラハギ S (c)

Dist. 北海道～九州, 朝鮮

B.L. 32 cm

ギンパ (大洗)

71. サバフグ S (r)

Dist. 本州中部～朝鮮, 東印度, アフリカ, 濠洲

B.L. 35 cm

ギンフグ (大洗)

体側, 腹面, 銀白色なので, この名がある。

東京都, 愛知県, 高知県, 宮崎県, 福岡県, 山口県, 広島県, 佐賀県, 鹿児島県, 京都府, 福井県, 石川県でギンフグと云う。

72. カナフグ S (r)

Dist. 南日本～アフリカ, 濠洲

B.L. 50 cm

コガネフグ (大洗)

体の背面が淡褐色なので, かく云うのであろう。

73. ショウサイフグ S (r)

Dist. 本州中部～長崎, 朝鮮

B.L. 32 cm

サフグ (大洗)

体の細長いフグの意であろう。

クロフグ (那珂湊)

体の背側黒色なので, かく云うのであろう。

74. アカメフグ S (r)

Dist. 南日本

B.L. 30 cm

メアカフグ (大洗)

眼の虹彩が美しい赤黄色なるため, この名がある。和歌山県でもかく云う。

75. ハリセンボン S (+)

Dist. 本州中部～朝鮮, 世界各地の温熱帶

B.L. 40 cm

ハリフグ (大洗, 大津)

体全体に二根をもつた棘が密生しているため、この名がある。
山口県, 広島県, 和歌山県でも、かく云う。

76. マンボウ NS (+)

Dist. 北海道以南, 太平洋各地, 地中海, 大西洋

B.L. 4 m

ウキギ (那珂湊, 水戸)

この魚は海面に浮かんでいることが、浮木に似ているので、この名がある。
山口県, 東北地方で、かく云う。

77. キチヂ N (cc)

Dist. 北日本

B.L. 30 cm

アカジ (大洗, 那珂湊, 久慈)

体色の地色が赤いので、この名がある。これが幼魚をコアカジと云う。
福島県でもかく云う。

78. メバル NS (c)

Dist. 小樽～九州, 朝鮮

B.L. 30 cm

メハル (大洗)

体に比べて眼が大きいため、この名がある。

79. サンコウメヌケ N (c)

Dist. 北日本, 相模灘

B.L. 45 cm

メヌキダイ (大洗)

200尋近くの深海底に棲息し、眼が大きく突出しているので、この名がある。

メヌケ (久慈)**80. バラメヌケ N (c)**

Dist. 北海道～銚子

B.L. 55 cm

メヌキダイ (大洗)**81. キツネメバル N (c)**

Dist. 北日本

B.L. 30 cm

ソイ (水戸, 那珂湊)

イソイヲ (磯魚) の略で、岩礁や岩石の底質を有する場所に棲息する魚を意味する。

ドンコ (大洗)**クロゾイ** (那珂湊)

体色黒味がかつた磯魚の意である。

82. ゴマゾイ N (+)

Dist. 北日本

B.L. 30 cm

ナツバオリ（水戸，大洗，那珂湊）

体色，紫黒色で，白っぽい小点を密布し，すこぶる美しく見え，夏羽織のようであるというので，この名がある。

83. ムラゾイ NS (+)

Dist. 北海道～九州，朝鮮，中国

B.L. 35 cm

ドンコ（大洗，那珂湊）

体色，黒褐色で，づんぐりした形をしているので，この名がある。

どんこは石川県鹿島郡で太つて背の低い者，どんころは丸いづんぐりした形（青森県）

84. カサゴ NS (+)

Dist. 北海道～南日本，朝鮮，中国

B.L. 30 cm

アコウ，アカゲ（大洗）

体色，美しい黄赤色で，淡褐色または黄色の斑紋をもつて赤魚の意味で，この名がある。

ネヨ（那珂湊）

根魚の略，常に岩礁の間，または海藻の繁茂する所に棲息して遠くへ離れない魚であるので，この名がある。

85. アヤメカサゴ S (+)

Dist. 南日本，新潟，釜山～香港

B.L. 30 cm

アコウ，アカゲ（水戸）

体色は赤色へやゝ黄味を加え，赤黄色の斑点や線状紋等が散在する。カサゴより深處に棲息する。赤い魚の意で，この名がある。

86. オニオコゼ S (+)

Dist. 本州中部～朝鮮，広東

B.L. 24 cm

オコジ（大洗）

オコジはオコゼより転音せるもの，オコゼは山の神の供物で，山の神は殊のほか，この魚を好み，これを供えて山の神の恩寵を期待する風習は広く見られる。山の神は醜いので，これをあげると自分より醜いものがあるといつて喜ぶと云う。オコゼはオコセより来たもので，オコゼは贈物，供物などの意味があるのではあるまいか。

87. クジメ NS (c)

Dist. 函館～朝鮮，長崎，北中国

B.L. 30 cm

クツツ（大洗），クグウツ（—），クチウツ（助川）

意味不明，福島県でもクチウツと云う。

イソヨ（那珂湊）

磯魚の意，すなわち岩礁や岩石の底質を有する場所に棲息するので，この名がある。

88. アイナメ NS (c)

Dist. 北海道，朝鮮，南日本，北中国

B.L. 40 cm

アイナ（水戸），アナ，エイナ（大洗，那珂湊）

意味不明，大言海には，鮎魚の意で，鱗細かく体表面鮎のごとく滑らかなるにより，この名があると述べているが，あやしいものである。

89. キヌカジカ NS (c)

Dist. 本州中部

B.L. 7.7 cm

サンタロコメ（平磯）

三太郎子奴，このカジカは小形のカジカで食用にはならないが，潮溜に多数棲息している。子供達はこの魚をよく知つてゐる。

カワバチコ（磯崎）意味不明。

90. ヤライカジカ N (+)

Dist. 函館

B.L.

イコジ（平磯）

磯の岩礁地帯に棲み，自分の棲んでいる処をあまり離れないで，この魚を釣り落しても同じ場所で釣ることがある。その習性がイコジのごとく見えるので，この名がある。

91. ケムシカジカ N (+)

Dist. 東北地方，カムチャッカ，日本海北部

B.L..

ヤマノカミ（久慈）

ヤマノカミはその容貌が非常に醜いとされているが，この魚の容貌もまことにグロテスクなので，この名がある。

92. イネゴチ S (+)

Dist. 本州中部～釜山，紅海，アフリカ，濠洲，ボリネシア

B.L. 40 cm

コチ（那珂湊）

コチに体形が似ているため，この名がある。意味不明。

93. サブロウ N (c)

Dist. 北日本

B.L. 20 cm

オニギス（水戸，那珂湊）

ギス（カナガシラ）よりさらに恐ろしい形態をしているので，オニギスの名がある。

トトキ（大洗，大津）

意味不明。

94. クサウオ NS (+)

Dist. 青森～長崎，釜山

B.L. 36 cm

オダハンニヤ（大洗）

その頭部の形状，おとなしい般若の面に似ているので，この名がある。

ネコサギ（那珂湊）

この魚は戦前は食用としなかつた。ネコサギはネコサケより転音したものであろう。戦前はこ

の魚を食わなかつたので、猫も食わないという意味で、この名がついているのであろう。戦争中は食糧としたが現在はほとんど食わない。

95. カナド S (r)

Dist. 北海道～南日本, 朝鮮仁川

B.L. 20 cm

ゴンゼイ (水戸), ゴンゼン (—)

意味不明。

ギス (大洗, 那珂湊)

この魚は頭が大きく体がやせて見えるので、この名がある。群馬県ではやせている人をギスと云う。

96. カナガシラ NS (c)

Dist. 函館～南日本, 朝鮮, 上海, 黄海

B.L. 40 cm

ギス (那珂湊)

福島県, 千葉県, 和歌山県等で, かく云う。

97. キホウボウ S (c)

Dist. 南日本, 富山, 釜山

B.L. 21 cm

オニゴンダイ (大洗)

鬼権太魚の意で, 眼前骨が突出して, 二本の角のようであり, その形態がいかにも恐ろしく見えるので, この名がある。

98. アゴハゼ NS (cc)

Dist. 函館～種ヶ島, 朝鮮

B.L. 7 cm

テッピリバッコ (大洗)

干潮時岩礁地帯の潮溜に游泳するハゼ, カジカ類の小魚を一般にバッコと呼ぶ。バッコは末子の意で小さい魚を意味している。ピリはビリでこれも小さいことを意味している。テッピリとは大変小さいと云う意味であろうか。

99. チチブ NS (c)

Dist. 北海道～琉球, 朝鮮

B.L. 14 cm

ウミハゼ (大洗)

淡水にも棲息するので, 海岸の潮溜にいるものを, かく呼んだものであろう。

クロゴロ (霞ヶ浦)

老成すると殊に体色が黒色になるので, この名がある。

100. シマハゼ NS (c)

Dist. 日本, 中国, ウラヂオストック

B.L. 6 cm

シマバツコ (大洗)

体は青味を帯びた淡褐色で, 体側に暗褐色の2縦帶があるので, この名がある。

フウセンバツコ (大洗)

意味不明。

101. コバンザメ S (r)

Dist. 殆ど全世界の温帶、熱帶、本州中部～朝鮮

B.L. 80 cm

ツチウオ（大津）

この魚は頭部に小判形の吸盤を持つてゐるので、大黒天の手に持つ打出の小槌のような魚であると云う意味でツチウオと名付けられたのであろう。

102. クモコバン NS (r)

Dist. 北海道～土佐

B.L. 15 cm

サメジラミ（大洗）

常にサメに吸着して生活するので、この名がある。大洗ではコバンザメ類を総称する。

千葉県ではコバンザメをサメジラミと云う。

103. ミシマオコゼ S (+)

Dist. 本州中部～朝鮮、フィリピン、南中国

B.L. 30 cm

ヤマノカミ（大津）

その容貌が山神を想像されるのと、この魚をヤマの神に供物として供え、山神の恩寵を願う古い習慣により、この名がある。

104. ハタタテヌメリ（ノドクサリ） NS (c)

Dist. 青森～琉球、長崎、釜山

B.L. 25 cm

コチ（大洗）

コチに似てゐるため、ネズッボ類をすべてコチと云う。

青森県、福島県、兵庫県（淡路島）でも、かく云う。

105. クラカケトラギス S (rr)

Dist. 本州中部～朝鮮、香港

B.L. 20 cm

トラボウ（大洗）

体は帶黄色で、体側に4条のV字形の黒色横帶があり、頭胸部にも2条の黒色横帶があるので、この名がある。千葉県でも、かく云う。

106. イカナゴ NS (cc)

Dist. ア拉斯カ、シベリア～九州、カリフォルニア

B.L. 20 cm

コウナゴ（大洗、那珂湊）

コウナギより転音したもので、小鰻の形に多少似てゐるので、この名あり。

紀伊ではシャシヤウナギと称し、小鰻を意味し、また、この幼魚をカマスゴなどとも云う。

宮城県、千葉県、東京都、愛知県、徳島県、秋田県、富山県、福井県、岡山県でコウナゴと云う。

ズブドウシ（大津）

これを漁獲するとき網目にズブズブつきさゝるので、この名があるのか、ズブトウシという道

具に似ているところからこの名が出たのか不明である。

107. ギンボ NS (+)

Dist. 千島, 北海道～長崎, 朝鮮, 北中国

B.L. 30 cm

ナギナタ (水戸, 大洗)

体形細長く, 背鰓, 臀鰓の棘の先端鋭く, これに触れると, 手など切れやすいので, この名がある。兵庫県ではテッキリと云う。

カタナギ (水戸, 大洗)

カタウナギ, 渦鰐の意で, 内湾数尋の海藻の繁茂せる砂泥底に棲息するのと, 形が多少ウナギに似ているため, この名がある。

宮城県ではカタナギおよびカタウナギ。兵庫県ではカタナギと云う。

108. ダイナンギンボ NS (c)

Dist. 青森～長崎, 朝鮮

B.L. 24 cm

カタウナギ, カタナギ (水戸, 大洗)

109. ヒラメ NS (cc)

Dist. 千島, 樺太, 南日本, 朝鮮, 南中国

B.L. 80 cm

ソゲ (那珂湊)

ヒラメの幼魚をソゲと云う。竹や木などを削いた端の肌に立つ小さいトゲをソゲと云うが; このソゲも, これより名付けられたものであろう。

宮城県, 福島県, 千葉県, 神奈川県などでもヒラメの幼魚をソゲと云う。

110. ガンゾウビラメ S (+)

Dist. 本州中部～釜山, 南中国

B.L. 45 cm

ガンゾウ (那珂湊)

意味不明。東京都, 千葉県, 兵庫県, 高知県でガンゾウ, 兵庫県, 宮城県でガンゾと云う。

111. アブラガレイ N (r)

Dist. 北日本, 樺太, 千島

B.L. 30 cm

エンキリ (大洗, 久慈)

不味のため二度と食べないと云う意である。

福島県でエンキリ, 宮城県でエンキレと云う。

ハオイ (久慈)

このカレイは口最も大きく, 両顎に弓形の先端を有する歯が発達しているので, この名があるのではあるまい。

岩手県では口が大きく歯の発達するヒラメをハオイと云い, 宮城県ではハガと云つている。

112. ソウハチ N (r)

Dist. 千島, 樺太～金華山, 隠岐, ウラジオストツク, 大連

B.L. 30 cm

カラス (平瀬)

体は暗褐色でほとんど斑紋がないので、この名がある。

千葉県、福島県でも、かく云う。

113. ムシガレイ NS (c)

Dist. 北海道～台湾、朝鮮

B.L. 30 cm

ムシ（大洗、那珂湊）

体の有眼側に大小種々の淡褐色の輪状斑紋があり、それが、あたかも虫食いのように見えるのでこの名がある。福島県でもかく云う。

114. ホシガレイ S (r)

Dist. 本州中部～朝鮮、中国北部

B.L. 60 cm

タカノハ（水戸）

意味不明。福島県、徳島県でタカノハ、石川県でタカノハガレイと云う。

115. マツカワ N (c)

Dist. 千島～茨城県

B.L. 60 cm

ダイナンマツカワ（那珂湊）

ダイナンとは宮城県亘理郡荒浜、静岡県志太郡、和歌山県日高郡、淡路島で大海、沖を意味する。マツカワはこの魚の皮膚が松皮に似た状態をしているので、かく云うのであろう。

このダイナンマツカワの無眼側は黄色で雄で、沖合にいると云われている。

またマツカワと云われるものはダイナンマツカワよりも大きく雌で海岸に近い処にいると云われる。

オオマツカワ（久慈）

雌は雄より体が大きいので、この名がある。

キマツカワ（久慈）

雄は無眼側が黄色なので、この名がある。オオマツカワより小さい。

マツカワは雄が雌よりも美味なので、雌雄によつて名称が異なるのであろう。

福島県でもマツカワをキマツカワと云う。

116. メイタガレイ NS (c)

Dist. 北海道～南日本、朝鮮、南中国

B.L. 30 cm

フウジマ（大洗）

意味不明。福島県でもかく云う。

メダカ（那珂湊）

眼がいくぶん突き出しているので、この名がある。

鳥取県でメタカ、京都府、兵庫県、和歌山県、島根県、岡山県、広島県、愛媛県ではメダカ、高知県ではメダカガレ、兵庫県、岡山県、広島県、山口県、香川県でメダカガレイと云う。

117. イシガレイ NS (c)

Dist. 樺太、千島～南日本、朝鮮、北中国

B.L. 50 cm

イシマコ（水戸、那珂湊）

体の上面に大きな鱗板が発達するので、この名がある。

マコ（水戸）

イシマコの略、真子は白子に対する言葉で雌魚の卵巣で淡黄色の塊状をなせるもので、この漁期は産卵期で、卵巣を持っているので、この名があるのであろう。

カツタイビラ（水戸、那珂湊）

癩病やみのヒラメの意である。有眼側に数個の鱗板が発達するため、この名がある。

愛知県でカツタイビラメと云う。

イシダマコ（大洗）

体の表面に石玉のようなものがついているため、この名がある。

113. ヤナギムシガレイ N (c)

Dist. 東北地方、朝鮮、長崎

B.L. 30 cm

ヤナギ（水戸、大洗、那珂湊）

体形細長く薄く、あたかも、柳の葉のようであるので、この名がある。

東京都、福島県、岩手県で、かく云う。

119. ババガレイ N (c)

Dist. 千島、樺太～茨城、福井、朝鮮、東支那海

B.L. 30 cm

ナメタ（大洗、久慈、大津、平潟）

体の鱗、細かく、粘液のため、体表、滑かな感じがするため、この名がある。

青森県、岩手県、宮城県、千葉県、兵庫県、山口県にて、かく云う。

ダラリ（大洗、久慈、大津、平潟）

ダラリとさがる、ダラリとたれるのダラリで、この魚を手にとつた時の感じを云つたものである。千葉県でも、かく云う。

120. シマウシノシタ（ツルマキ） S (r)

Dist. 本州中部～中国、ペルシャ湾、濠洲

B.L. 30 cm

シマウシカ（大洗）

体に褐色横帯があり、またその形うしのしたに似たため、この名がある。

121. クロウシノシタ NS (c)

Dist. 青森～南日本、釜山、南中国

B.L. 30 cm

ベロシヤ（水戸）

体形がウシの舌に似ているため、この名がある。

福島県ではウシノシタ類をベロと云う。

ウシカ（大洗、那珂湊）

牛の舌の意である。

122. アカシタビラメ S (c)

Dist. 本州中部～釜山、南中国

B.L. 30 cm

アカウシカ（大洗）

シタビラメ (〃)

ウシノシタ (〃)

123. エゾアイナメ NS (+)

Dist. 函館～鹿児島

B.L. 40 cm

ノロマサンゴロウ (大洗)

意味不明。

テダル (大洗)

意味不明。

124. イソアイナメ (ヒゲダラ) S (r)

Dist. 東京, 新潟～長崎

B.L. 40 cm

グゾウ (那珂湊, 久慈, 大津)

テダル (水戸, 那珂湊, 磯崎)

ノロマ (大洗)

いずれも意味不明。

125. チコダラ NS

Dist. 北海道～鹿児島

B.L. 35 cm

ノロマ (水戸)

意味不明。あるいは体形よりノロマのような感じを受けるためか。

126. アカグツ S (r)

Dist. 本州中部～朝鮮, 南中国, 東印度

B.L. 30 cm

アンコウ (大洗)

形がアンコウに似ているため、この名がある。

以上 126 種の魚類について、その方言の意味を解説したが、これらを取りまとめて考察すると、次のごとく分類される。

1. 形態を現わすもの

a. 形態の全体より名付けたもの

スボ, サガ, グタベ, ボントク, トリエイ, トオジン, サイレンボウ, イシダイ, タチノイ, マリアジ, ハダカイシモチ, ウゴイ, サフグ, ハリフグ, ドンコ, テッピリバッコ, オニギス, ギス, ナギナタ, カタウナギ, ソゲ, カッタイビラ, ヤナギ, ペロシヤ, ウシカ, シタビラメ, ノロマ, オオマツカワ, ナメタ, ダラリ。

b. 特徴ある部分の形態より名付けられたもの

ネンブツサメ, ネンブツサガ, モロ, ダイギリ, ハガツ, サボミヤ, ケツメトダイジン, ピンショウ, イシモチ, イシマコ, ハナダイ, デコ, メハル, メヌキダイ, オダハンニヤ, ツチウオ, メダカ, イシダマコ, オニゴンダイ。

2. 斑紋, 色彩, 光沢を現わすもの

a. 斑紋を現わすもの

ホシサガ, シマガツオ, シマガツ, シマダイ, コモンダイ, ナツバオリ, シマバツコ, トラボ

ウ, ムシ, シマウシカ。

b. 色彩を現わすもの

セグロ, アカムツ, スミヤキ, ノドグロ, シラツタイ, アカダイ, クロフグ, アカジ, クロソイ, アコウ, アカゲ, クロゴロ, アカウシカ, カラス, キマツカワ。

c. 光沢を現わすもの

ギンメ, メヒカリ, ギンハモ, カガミダイ, ギンフグ, コガネフグ, メアカフグ。

3. 習性を現わすもの

ダボギス, カヨコ, ハモ, ツバメウオ, トビヨ, スバ, ホンカジキ, オカジキ, メカジキ, マンビキ, ボクヅキ, モクヅキ, タナゴ, ウキギ, ソイ, ネヨ, イソヨ, イコジ, ウミハゼ, サメジラミ, ズブドウシ, カタウナギ, カタナギ, マコ, ノロマ, ダイナンマツカワ。

4. 老幼を現わすもの

チリメン——ボウズ——セグロ——ゴボウイワシ

チリメン——パパ——シラウヲ

スバ——イナ——ニサイゴ——ボラ

デンブク——メジ——チウブ——マグロ

メボ——チウボ——バチ

ワカナ——イナダ——サンパク——ブリ——丹後ブリ

セイゴ——セッパ——ススキ

ハナダイ——デコ

カイヅ——クロダイ

5. 魚臭を現わすもの

ネションベン。

6. 味を暗示するもの

a. 美味なるもの

モウカ, ホンカジキ, オカジキ, トノサマウオ, アヅキ, ムギメン, キマツカワ。

b. 不味なるもの

ネコサギ, エンキリ。

7. 料理法を暗示するもの

ギンバ。

8. 脂肪の多いことを現わすもの

アブラサガ, アブラ。

9. 人名又は神名により, その性質を現わすもの

ジンベイサン, エビスサガ, カゲキヨ, ヤマノカミ, サンタロコメ, ノロマサンゴロウ。

10. 意味の不明なるもの

クサムロリ, ハツカザメ, ジョオヘイ, ハンブシ, レンテ, レンティ, カド, サツパ, ヨド, カツ, カツウ, ソウダ, セツパ, カイヅ, クツツ, クグウツ, クチウツ, アイナ, カハバチコ, フウセンバツコ, トトキ, ゴンゼイ, ゴンゼン, ガンゾウ, タカノハ, フウジマ, テダル, グヅウ。

方言をもつ魚類 126 種中, 南日本のもの 46 種, 北日本のもの 18 種, 南北両日本に分布するもの 42 種である。本県の魚類の方言は当地方特有のものも相当多く, 北日本及南北両日本に分布する魚に多い。しかし, 多分に関西, 四国, 九州地方の影響を受けている。南日本のものは殊に

その影響を受け、そのままの形で移入されたものも少くない。

魚類の方言は昔より漁民大衆の間で、生活と直結して、魚の習性、形態、利用、その他に注目しつゝ自然に生まれた言葉なので、生活の臭のする生々したものが多い。

参考文献

1. 茨城県水産会 1940 : 茨城の水産, pp. 26-28.
2. 松野助吉 1921 : 魚名便覧
3. 田中茂穂 1932 : 魚類学
4. 田中茂穂 1941 : 実用魚介方言図説
5. 田中茂穂 1926 : 食用魚類
6. 田中茂穂 方言研究法私案 方言 V(9) pp. 618-625.
7. 田中茂穂 私の採れる魚の方言調査 方言 iii(7), pp. 482-492.
8. 丹下 手 1936 : 茨城県磯浜町に於ける魚類方言調査(未発表)
9. 岡田彌一郎・松原喜代松 1938 : 日本產魚類検索
10. 水産庁 1954 : 水産動植物慣用名集覽
11. 蒲原稔治 1950 : 土佐及九州の魚類
12. 大槻文彦 1931-35 : 大言海 4巻
13. 東条 操 1951 : 全国方言辞典
14. 柳田国男 1951 : 民俗学辞典
15. 柳田国男 1930 : 蝦牛考
16. 浅野長雄・原田和民 1952 : 茨城県の海産魚類相に就て (1) 茨城博物同好会々誌, 13号, pp. 20-29.
17. 渋沢敬三 1942 : 日本魚名集覽 1.2.
18. 安田徳太郎 1953-54 : 人間の歴史 2.4.

番号	標準和名	方言	科名	学名
1	クロメクラウナギ	スボ ⁵ (豊浦)	メクラウナギ科	<i>Paramixin atami</i> DEAN
2	ホシザメ	サガ ^{1,5} , サガボウ ¹ , ホシザガ ^{1,4} (大洗, 那珂湊)	ホシザメ科	<i>Mustelus manazo</i> BLEEKER
3	ドチザメ	サガ ⁴ ドチボウ ⁴ (大洗), サガボウ ⁵ (那珂湊)		<i>Triakis scyllium</i> M. et H.
4	ヨシキリザメ	グタベ ⁵ (那珂湊)		<i>Prionace glauca</i> (LINNÉ)
5	シユモクザメ	ネンブツザメ ¹ (大津), ネンブツサガ ⁴ (大洗)	シユモクザメ科	<i>Sphyraena zygaena</i> (LINNÉ)
6	ジンベイザメ	エビスサガ ⁴ , ジンベイサン ⁴ (大洗)	ジンベイザメ科	<i>Rhinodon typus</i> SMITH
7	ネヅミザメ	モウカ ⁵ (那珂湊)	ネヅミザメ科	<i>Lamna ditropis</i> HUBBS et FOLLETT
8	アヲザメ	モロ ^{4,5} (大洗, 那珂湊), クサムロリ ² (大津)		<i>Isuropsis glauca</i> (M. et H.)
9	アブラツノザメ	アブラサガ ⁴ (大洗), ハツカザメ ⁶ (大谷村)	ツノザメ科	<i>Squalus suckleyi</i> (GIRARD)
10	ノコギリザメ	ダイギリ ^{1,2} (水戸, 大津), ジョウヘイ ⁴ (大洗)	ノコギリザメ科	<i>Pristiophorus japonicus</i> GÜNTHER
11	サカタザメ	ハシブシ ^{1,2} (那珂湊)	サカタザメ科	<i>Rhinobatus schlegeli</i> (M. et H.)
12	ガンギエイ	サボミヤ ^{4,5} (大洗, 那珂湊), レンテ ² , レンテイ ^{1,6} (那珂湊, 久慈), ボントク ^{1,2} (大津)	ガンギエイ科	<i>Raja kenojei</i> M. et H.
13	アカエイ	サボミヤ ¹ (—), カスペ(那湊珂)	アカエイ科	<i>Dasyatis akajei</i> (M. et H.)
14	トビエイ	トリエイ ⁵ (大洗), ボントク ^{4,5} (大洗, 豊浦)	トビエイ科	<i>Aetobatus tobiei</i> (BLEEKER)
15	イトマキエイ	ギンメ ⁵ (大洗)	イトマキエイ科	<i>Mobula japonica</i> (M. et H.)
16	ココノホシギンザメ	ウサギ ⁵ (久慈), ケツメトダイジン ⁵ (大津)	ギンザメ科	<i>Chimaera barbouri</i> GARMAN
17	ギス	ダボギス ^{1,6} (県下一円)	ギス科	<i>Pterothrius gissu</i> HILGENDORF
18	ニシン	カド ¹ , カドイワシ ⁵ (那珂湊)	イワシ科	<i>Clupea pallasi</i> (C. et V.)
19	サッパ	サツパイ ⁵ (那珂湊)		<i>Harengula zynas</i> (BLEEKER)
20	カタクチイワシ	セグロ ⁵ (県下一円), チリメン ⁶ (大洗), ボウズ ⁶ (大洗), ゴボウイワシ ⁶ (大洗)	カタクチイワシ科	<i>Engraulis japonica</i> T. et S.
21	サケ	サケノヨ ⁵ (那珂湊)	サケ科	<i>Onchorhynchus keta</i> (WALBAUM)
22	シラウオ	トノサマウヲ ⁵ (麻生), チリメン ⁶ (大洗), ババ ⁶ (大洗)	シラウオ科	<i>Salangichthys microdon</i> BLEEKER
23	アヲメエソ	メヒカリ ⁶ (波崎)	アヲメエソ科	<i>Chlorophthalmus albatrossis</i> J. et ST.
24	ムラサキシャチフリ	トオヂン ⁶ (水戸, 那珂湊)	シャチフリ科	<i>Ateleopus purpureus</i> TANAKA
25	ウナギ	ガヨ ² (那珂湊), カヤシコ ⁵ (那珂湊)	ウナギ科	<i>Anguilla japonica</i> T. et S.
26	マアナゴ	ハモ ^{4,5} (県下一円)	マアナゴ科	<i>Astroconger myriaster</i> (BREVOORT)
27	ギンアナゴ	ギンハモ ⁵ (大洗)		
28	サヨリ	ヨド ^{1,2} , サイレンボウ ^{1,2} (土浦)	サヨリ科	<i>Hemirhamphus krumeus</i> J. et ST.
29	トビウオ	トビヨ ² (—), トビオ ⁴ (大洗), ツバメウヲ ^{1,2} (—)	トビウオ科	<i>Cypsilurus agoo</i> (T. et S.)
30	ヤマトカマス	カマス ^{4,5} (大洗, 那珂湊)	カマス科	<i>Sphyraena japonica</i> C. et V.

番号	標準和名	方言	言	科名	学名
31	ボラ	スバ ¹ (土浦), イナ, ニサイゴ ^{1,5} (那珂湊)		ボラ科	<i>Mugil cephalus</i> LINNÉ
32	マトオダイ	マツダイ ^{1,2,4} (大洗), カガミダイ ⁵ (那珂湊)		マトオダイ科	<i>Zeus japonicus</i> C. et V.
33	マツカサウヲ	イシダイ ¹ (水戸)		マツカサウヲ科	<i>Monocentris japonicus</i> (HOOTUYN)
34	カツヲ	カツ, カツウ ⁵ (那珂湊)		カツヲ科	<i>Katsuwonus vagans</i> (LESSON)
35	ヒラソウダ	ソウダ ⁵ (那珂湊)			<i>Auxis hira</i> KISHINOUYE
36	マルソウダ	チボ ⁴ (大洗), ソウダ ⁵ (那珂湊)			<i>Auxis tapeinosoma</i> (BLEEKER)
37	マグロ	デンブク ^{4,5} (大洗, 那珂湊), メジ ⁵ (那珂湊)		マグロ科	<i>Thunnus orientalis</i> (T. et S.)
38	ビンナガ	チウブ ⁵ (那珂湊)			<i>Germo germo</i> (LACEPEDE)
39	メバチ	メボ, チウボ, バチ ⁵ (那珂湊)			<i>Parathunnus sibi</i> (T. et S.)
40	ハガツヲ	ハガツ, シマガツ ⁴ (大洗)		サハラ科	<i>Sarda orientalis</i> (T. et S.)
41	アブラソコムツ	アブラ ⁵ (那珂湊)		アブラソコムツ科	<i>Xenogramma carinatum</i> WAITE
42	タチウヲ	タチノイ ⁴ (大洗)		タチウヲ科	<i>Trichiurus haumela</i> (FORSKAL)
43	マカジキ	ホンカジキ ⁴ (大洗), オカジキ ³ (那珂湊)		マカジキ科	<i>Makaira mitsukurii</i> (J. et S.)
44	メカジキ	メカ, ラクダ ⁴ (大洗)			<i>Xiphias gladius</i> LINNÉ
45	シイラ	マゾビキ ^{4,5} (大洗, 那珂湊)		シイラ科	<i>Coryphaena hippurus</i> LINNÉ
46	イボダイ	ボクヅキ ⁴ (大洗)		イボダイ科	<i>Psenopsis anomala</i> (T. et S.)
47	カイワリ	マルアジ ⁴ (大洗)		アジ科	<i>Caranx equulae</i> T. et S.
48	ブリ	ワカナ, イナズ, サンバク, タシゴブ ⁵ (那 珂湊, 大洗, 磯崎)			<i>Seriola quinqueradiata</i> (T. et S.)
49	イシダイ	シマダイ ^{3,4,5} (大洗, 那珂湊, 大津)		イシダイ科	<i>Oplegnathus fasciatus</i> (T. et S.)
50	イシガキダイ	イシダイ ⁵ (大洗), コモンダイ ³ (大津)			<i>O. punctatus</i> (T. et S.)
51	チビキ	アカムツ ¹ (—)		チビキ科	<i>Erythrocles schlegeli</i> (RICHARDSON)
52	チカメリントキ	カゲキヨ, メヒカリ ⁴ (大洗)		キントキダイ科	<i>Priacanthus boops</i> (SCHNEIDER)
53	ススキ	セイゴ, セツコ ⁵ (那珂湊)		ススキ科	<i>Lateolabrax japonicus</i> (CUVIER)
54	イシナギ	スミヤキ ⁵ (大洗), スネアイ ^{1,2} (—), スネヤ ⁴ (大洗)			<i>Stereolepis ischiniagi</i> (HILGENDORF)
55	アカムツ	ノドグロ ⁵ (久慈)			<i>Doderleina berycoides</i> (HILGENDORF)
56	ニベ	イシモチ ^{1,2,4,5,6} (水戸, 大洗, 那珂湊, 久慈)		ニベ科	<i>Nibe mitsukurii</i> (J. et S.)
57	イシモチ	ハダカイシモチ ^{1,2,5} (大洗)			<i>N. argentata</i> (HOOTUYN)
58	メジナ	モクヅキ ⁴ (大洗)		メジナ科	<i>Girella punctata</i> GRAY
59	チダイ	ハナダイ ^{4,5} (大洗, 平磯), デコ ⁵ (大洗)		タイ科	<i>Evynnis japonicus</i> TANAKA
60	マダイ	アカダイ ⁶ (中野村)			<i>Pagrosomus major</i> (T. et S.)

番号	標準和名	方言	科名	学名
61	ヘダイ	シラツタイ ⁵ (大洗)		<i>Sparus aries</i> T. et S.
62	クロダイ	カイヅ ⁵ (大洗、那珂湊)		<i>Sparus swinhonis</i> GÜNTHER
63	ウミタナゴ	タナコ ^{1,4} (大洗)	ウミタナゴ科	<i>Ditrema tennuncinckii</i> BLEEKER
64	ササノハベラ	ウゴイ ⁴ (大洗), オゴイ ⁵ (那珂湊、久慈)	ベラ科	<i>Pseudolabrus japonicus</i> (HOUTTUYN)
65	キウセン	アヅキ, ムギメシ ⁶ (大津)		<i>Halichoeres poecilopterus</i> (T. et S.)
66	カゴカキダイ	ギンバ ⁴ (大洗)	チヨウチヨウウヲ科	<i>Microcanthus strigatus</i> (C. et V.)
67	アイゴ	ネションベン ⁶ (大洗)	アイゴ科	<i>Siganus fuscescens</i> (HOUTTUYN)
68	カワハギ	ギンバ ⁵ (大洗, 那珂湊)	カワハギ科	<i>Monacanthus cirrifer</i> T. et S.
69	アミメハギ	ギンバ ⁴ (大洗)		<i>Rudarius ercodes</i> J. et F.
70	ウマヅラハギ	ギンバ ⁶ (大洗)		<i>Cantherinus modestus</i> (GÜNTHER)
71	サバフグ	ギンフグ ⁴ (大洗)	マフグ科	<i>Sphaeroides spadiceus</i> (RICHARDSON)
72	カナフグ	コガネフグ ⁴ (大洗)		<i>S. inermis</i> (T. et S.)
73	ショウサイフグ	サフグ ^{4,5} (大洗), クロフグ ⁵ (那珂湊)		<i>S. vermicularis</i> (T. et S.)
74	アカメフグ	メアカフグ ⁴ (大洗)		<i>S. chrysops</i> (HILGENDORF)
75	ハリセンボン	ハリフグ ^{1,2,4} (大洗, 大津)	ハリセンボン科	<i>Diodon holacanthus</i> LINNÉ
76	マンボウ	ウキギ ⁵ (那珂湊)	マンボウ科	<i>Mola mola</i> (LINNÉ)
77	キチヂ	アカジ ^{1,4,5,6} (大洗, 那珂湊, 久慈)	カサゴ科	<i>Sebastolobus macrochir</i> (GÜNTHER)
78	メバル	メハル ⁴ (大洗)		<i>Sebastodes inermis</i> (C. et V.)
79	サンコウメヌケ	メヌキダイ ⁴ (大洗), メヌケ(久慈)		<i>S. flameus</i> J. et ST.
80	バラメヌケ	メヌキダイ ⁴ (大洗)		<i>S. baramenuke</i> WAKIYA
81	キツネメバル	ソイ ^{1,2} (水戸), クロゾイ ⁵ (那珂湊), ドンコ ⁴ (大洗)		<i>Sebastichthys vulgaris</i> (S. et D.)
82	ズマゾイ	ナツバヨリ ^{1,2,4,5} (水戸, 大洗, 那珂湊)		<i>S. nivosus</i> (HILGENDORF)
83	ムラゾイ	ドンコ ^{1,4,5} (大洗, 那珂湊)		<i>S. pachycephalus</i> (T. et S.)
84	カサゴ	アコウ ^{1,4} , アカゲ ¹ (大洗), ネヨ(那珂湊)		<i>Sebasticus marmoratus</i> (C. et V.)
85	アヤメカサゴ	アコウ ¹ , アカゲ ² (水戸)		<i>S. albofaciatus</i> (LACEPEDE)
86	オニオコゼ	オコジ ⁴ (大洗)		<i>Decterias pusillus</i> (T. et S.)
87	クジメ	ククツ ⁴ (大洗), クグウツ ¹ (---), クチウツ ² (助川), イソヨ ⁵ (那珂湊)	アヒナメ科	<i>Agrammus agrammus</i> (T. et S.)
88	アイナメ	アイナ ² (水戸)アナ, エイナ ⁵ (大洗, 那珂湊)		<i>Hexagrammos otakii</i> J. et ST.
89	キヌカジカ	サンタロコメ ⁵ (平磯), カハバチコ ⁵ (磯崎)	カジカ科	<i>Furcina oshimana</i> J. et ST.
90	ヤライカジカ	イコジ ⁵ (平磯)		<i>Myxocephalus yesoensis</i> SNYDER

番号	標準和名	方言	言	科	名	学	名
91	ケムシカジカ	ヤマノカミ ⁵ (久慈)				<i>Hemitripterus vitlosus</i> (PALLAS)	
92	イネヂチ	コヂ ⁴ (磯浜)		コヂ科		<i>Cocicus crocodilus</i> (TILESIIUS)	
93	サブロウ	オニギス ^{1,2} (水戸, 那珂湊)トキ ^{4,5} (大洗, 大津)		トクビレ科		<i>Occa iburia</i> J. et ST.	
94	クサウオ	オグハシニニヤ ⁴ (大洗), ネコサギ ⁵ (那珂湊), ササザラ ⁶ (大谷村)				<i>Liparis tanaka</i> (G. et B.)	
95	カナド	ゴンゼイ ^{2,6} (水戸)ゴンゼン ¹ (一)ギス ⁵ (那珂湊)		ホウボウ科		<i>Lepidotrigra guntheri</i> HILGENDORF	
96	カナガシラ	ギス ⁵ (那珂湊)				<i>L. microptera</i> GÜNTHER	
97	キホウボウ	オニゴンダイ ⁴ (大洗)		キホウボウ科		<i>Peristedion orientale</i> T. et S.	
98	アゴハゼ	テツビリバツコ ⁴ (大洗)		ハゼ科		<i>Chasmichthys doricognathus</i> doricognathus HILGENDORF	
99	チチブ	ウミハゼ ⁴ (大洗), クロゴロ ¹ (霞ヶ浦)				<i>Tridentiger obscurus</i> obscurus (T. et S.)	
100	シマハゼ	シマバツコ ⁴ , フウセンバツコ ⁴ (大洗)				<i>T. trigonocephalus</i> (GILL)	
101	コバンザメ	ツチウオ ¹ (大津)		コバンザメ科		<i>Leptecheneis maucrates</i> (LINNÉ)	
102	クモコバン	サメジラミ ⁴ (大洗)				<i>Echeneis nubifera</i> TANAKA	
103	ミシマオコゼ	ヤマノカミ ³ (大津)		ミシマオコゼ科		<i>Uranoscopus japonicus</i> (HOUTTUYN)	
104	ハタタテヌメリ	コチ ⁵ (那珂湊)				<i>Callionymus valenciennesi</i> T. et S.	
105	クラカケトラギス	トラボウ ⁴ (大洗)		ネズツボ科		<i>Neopercis sexfaciata</i> (T. et S.)	
106	イカナゴ	コウナゴ ^{5,6} (大洗, 那珂湊, 久慈), ズブドウシ ¹ (大津)		イカナゴ科		<i>Anomodutes personatus</i> GIRARD	
107	ギンボ	ナギナタ ² (水戸, 大洗), カタナギ ⁴ (大洗), タレバカ ^{1,2} (大津)		ギンボ科		<i>Enedrius nebulosus</i> (T. et S.)	
108	ダイナソギンボ	カタウナギ ^{1,2} カタナギ ^{1,2,4} (水戸, 大洗)				<i>Dictyosoma burgeri</i> VAN DER HOEVER	
109	ヒラメ	ソゲ ⁵ (那珂湊)		ヒラメ科		<i>Paralichthys olivaceus</i> (T. et S.)	
110	ガシヅウビラメ	ガシヅウ ^{5,6} (那珂湊)				<i>Pseudorhombus cinamomeus</i> (T. et S.)	
111	アブラガレイ	エンキリ, ハオイ ^{1,5} (久慈)		カレイ科		<i>Atheresthes evermanni</i> J. et ST.	
112	ソウハチ	カラス ^{1,6} (平渦)				<i>Cleisthenes herzenstein</i> (SCHMIDT)	
113	ムシガレイ	ムシ ^{1,4,5} (大洗, 那珂湊)				<i>Eopsetta grigorjensis</i> (HERZENSTEIN)	
114	ホシガレイ	タカノハ ^{1,4} (水戸)				<i>Verasper variegatus</i> (T. et S.)	
115	マツカワ	ダイナソマツカワ, マツカワ ⁵ (那珂湊), キマツカワ, オオマツカワ ⁵ (久慈)				<i>V. moseri</i> J. et G.	
116	メイタガレイ	フウジマ ⁴ (大洗), メダカ ^{1,6} (那珂湊)				<i>Pleuronichthys cornutus</i> (T. et S.)	
117	イシガレイ	イシマコ ^{1,2,3} (那珂湊, 水戸), マコ ^{1,2} (水戸)				<i>Kareius bicoloratus</i> (BASILEWSKY)	
118	ヤナギムシガレイ	イシグマコ ⁴ (大洗), カツタイビラ ^{1,2,5} (那珂湊)				<i>Tanakius kitaharae</i> (J. et ST.)	
119	ババガレイ	ヤナギ ^{1,2,5} (大洗, 那珂湊)				<i>Mirostomus achne</i> (J. et ST.)	
120	シマウシノシタ	ナメタ, ダラリ ^{1,2,4,5} (大洗, 久慈, 大津, 平渦)		ウシノシタ科		<i>Zebrias zebrinus</i> (T. et S.)	

番号	標準和名	方言	科名	学名
121	クロウシノシタ	ペロシヤ ² (水戸), ウシカ ^{4,5} (大洗, 那珂湊)		<i>Rhinoplaxias japonica</i> (T. et S.)
122	アカシタビラメ	アカウシカ, シタビラメ, ウシノシタ ⁴ (大洗)		<i>Areliscus joyneri</i> (GÜNTHER)
123	エゾアイナメ	ノロマサンゴロウ, テダル ⁴ (大洗)	タラ科	<i>Lotella maximowiczii</i> HERZENSTEIN
124	イソアイナメ	グゾウ ^{5,6} (那珂湊, 久慈, 大津), テダル ^{5,6} (那 珂湊, 磐崎), ノロマ(大洗)		<i>L. phycis</i> (T. et S.)
125	チゴダラ	ノロマ ⁶ (水戸)		<i>Physiculus japonicus</i> HILGENDORF
126	アカグツ	アシコウ ⁴ (大洗)	アカグツ科	<i>Halieutaea stellata</i> (VAHL)